

経営比較分析表（平成30年度決算）

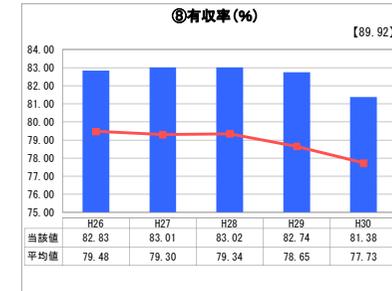
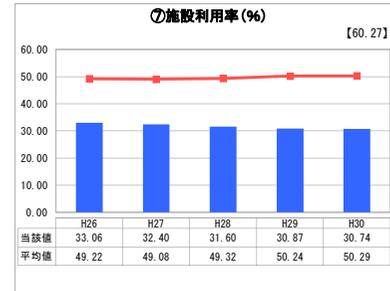
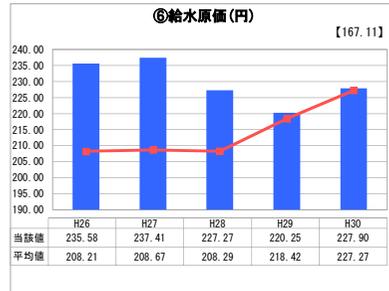
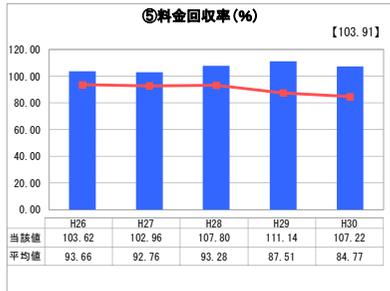
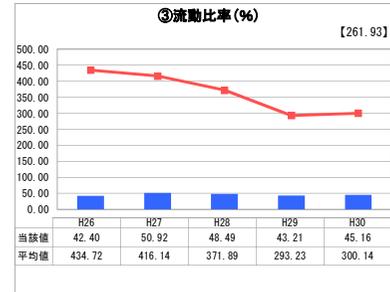
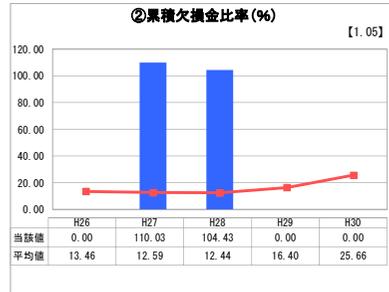
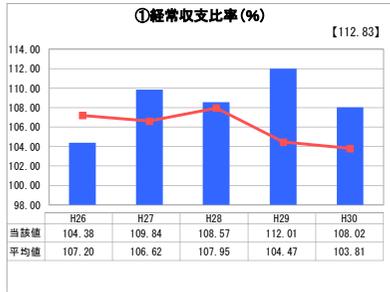
神奈川県 真鶴町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	49.05	100.00	3,679	

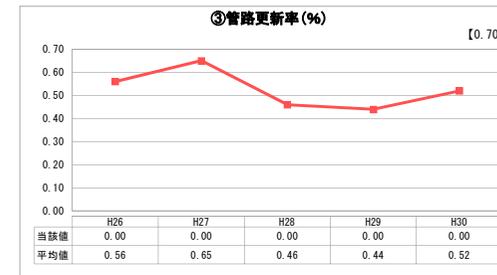
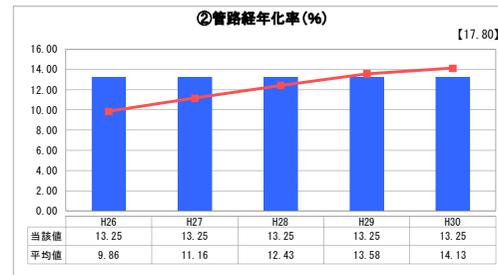
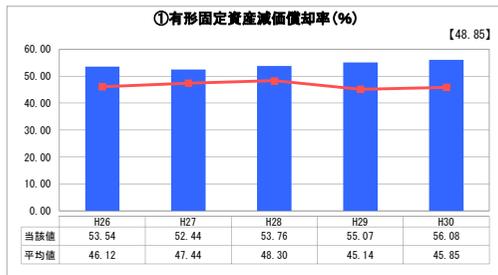
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,334	7.05	1,040.28
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,265	7.02	1,034.90

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超える水準となっておりますが、流動比率は低い水準となっており、今後更なる費用削減や必要に応じた管路や施設等の更新の見直しにより、経営の健全化を目指してまいります。決算状況を経年比較すると、給水人口の減少・使用量の減少等による給水収益の減少に伴う現金の減少傾向が見られることから、将来、厳しい経営状況に推移していくことが予想されます。給水原価は昨年度まで類似団体と比較し高い数値で推移していましたが、今年度は近い数値になっています。しかし、受水費が費用に占める割合は今後も依然として高い状況が続いていくことが考えられます。施設利用率の低さは、利用状況や適切な施設規模を把握することにより、施設維持管理費等費用の更なる削減を図る必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は類似団体内で高い水準になっています。管路経年率は類似団体内の水準に近くなっており、管路更新率は今年度もとなり、老朽化が進む一方、更新が行うことができない状況が続いています。

全体総括

厳しい経営状況への推移が一層進んでおり、整備計画の見直しや費用削減を進める必要があります。収入の基盤である給水収益の増加には、料金改定が不可欠であり、その必要性について検討を進めておりますが、近隣自治体や全国平均に比べても水道料金が高い状況を踏まえ、適正な料金体系について多角的な視点から見直しを図り、慎重に検討してまいります。